

山口県立

# 総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

## 消化器外科

機能障害防止と永久人工肛門回避へ



2022.11 Vol.50

- ① 副院長挨拶 ② がん患者サロン「レモングラス」創刊50号の発刊について ③④ 特集 消化器外科  
⑤ 看護部通信 患者さんにご家族からいただいた言葉に基づくスタッフ教育 ⑥ 地域医療連携ニュース 「がん相談支援センター」って、  
どんなところ? / 院長だより ⑦ インフォメーション 組織の名称変更について / 広報番組放送予定 / 令和4年度 県民公開講座の  
開催報告、編集後記 外来診察担当医表(別紙)

副院長  
臨床工学部長 田中 浩臨床工学部の取り組み  
— 安全管理とタスクシフティング —

近年の医療機器は、AIによる診断補助や手術支援ロボットによる手術など目覚ましく進化しています。当院には3000を超える医療機器がありますが、その保守管理と機器の操作を主体とした臨床業務を行っているのが医療機器のスペシャリストである臨床工学技士であり、現在当院には20名在籍しています。

医療機器の操作と管理は医療安全に直結する業務です。医療安全に対する取り組みとして、医療機器を使用するスタッフへの教育研修を定期的に行っています。また、医療安全推進室と連携し、定例カンファレンスを通して医療機器関連のヒヤリハットをシェア・分析することで、医療機器をより安全に使用するための方策を講じて、医療事故を未然に防止することに取り組んでいます。保守管理は、MEセンターという管理スペースを設け、貸出/返却/点検を一元化する中央管理を行っており、機器の購入や更新・廃棄のデータを収集することにより、機器の不具合を未然に防ぐ事に役立っています。

近年医師の「働き方改革」から、看護師や薬剤師など様々な医療従事者による医師業務のタスク・シフト/シェアが進められています。臨床工学技部では、医療機器管理から人工透析、人工心肺、人工呼吸器管理といった従前からの業務に加え、手術室での麻酔医の介助や看護師の補助、ペースメーカー植込みやアブレーション、脳血管カテーテル治療やシャントPTAなどの清潔介助、内視鏡検査や治療時の介助など、医師や看護師が行っていた業務をタスク・シフト/シェアすることにより業務軽減に寄与しています。

ただ重要な事はコ・メディカルとしての専門性を失わないことです。臨床工学技士の取り組むタスク・シフト/シェアは医療機器に関連したデバイスを用いる検査や治療、そして手術での介助としています。

今後医療機器は益々進化していきますので、医療安全の分野でも臨床工学部の役割は大きくなり、また、タスク・シフト/シェアの推進により業務が拡大していくと思われれます。今後もチーム医療の重要な部署の一つとして貢献していく所存ですので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



## ご存知ですか？

がん患者サロン  
「レモングラス」

「がん患者サロン」は、がん患者さんやそのご家族のための交流の場所です。

がんと診断されて、「だれかに気持ちを聞いてほしい」「ほかのひとはどうやって病気と向き合っているの？」などさまざまな思いを抱えておられないか？

当院には「レモングラス」というがん患者サロンがあります。

当院で研修を受けたピアサポーターがお話をお聞きします。参加者同士が語り合うこともできます。ピアサポーターや参加者と話すことで気持ちが楽になり、疑問や不安、悩みを解決する糸口が見つかることがあります。その他に、年に数回、山口県立総合医療センターの職員が、がん患者向けのミニ講座を開催したり、がん関連の書籍の貸し出し等を行っています。

がん患者サロン「レモングラス」は、利用された方の気持ちを少しでもときほぐすことができたらという思いで活動しています。

感染対策に配慮しながら開催しています。当院にかかられていない方もご参加いただけます。参加ご希望の方は、上記までお問い合わせください。



## 【開催のご案内】

- ◆日時： 第1・3火曜日 11時～13時
- ◆場所： 山口県立総合医療センター  
3階図書室
- ◆参加費： 無料 ※参加は予約制です。

お問い合わせ・ご予約先

がん相談支援センター（平日8時30分～17時15分）

TEL: 0835-22-5145

山口県立

総合医療センターだより

## 創刊50号の発刊について

2010年8月に創刊した病院だよりは、今回50号を迎えることとなりました。創刊号は、人工関節センターの設立、地方独立行政法人への移行という項目から始まりました。その後、生殖医療、地域医療連携室、ドクターヘリ等のご案内をさせていただきました。創刊当時の看護部通信、地域医療連携ニュースは現在も続いており、地域に密着

した病院の果たすべき役割とを考えています。当時の院長から今の武藤院長が3代目となり、2018年5月(32号)での武藤院長挨拶が遠い昔のようです。病院だよりの内容は、山口県立総合医療センターの歩みと一致しています。これからも歩みを止めることなく、皆さんと共に一致団結して邁進して参ります。



## ■直腸がんについて

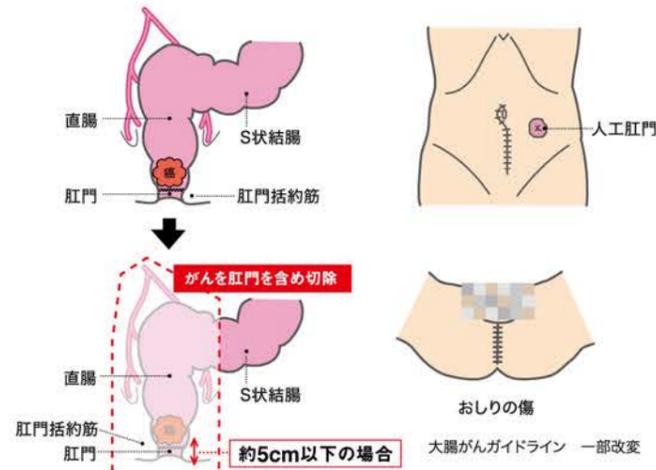
大腸がんは本邦で増加しているがんの1つです。そのなかで、直腸がんは大腸がん全体の1/3程度を占めており、人口10万人あたりでの罹患率は41.4例(男性53.7例、女性29.8例)、死亡率は12.6人(男性16.3人、女性9.2人)と報告されています。

直腸がんの診断には、大腸内視鏡検査が必須と言えます。CTを用いて行う方法(CTコロノグラフィー)も有効ですが、最終的には生検による病理診断が必要なためです。大腸内視鏡検査は敷居が高く感じるかもしれませんが、少しでも楽に検査を受けて頂けるように、当院でも消化器内視鏡センターの開設を期に鎮静下での検査を開始し、苦しみや痛みを軽減した検査を行なっています。診断確定後は、CTやエコー、PET検査でステージを決定します。

直腸は骨盤内に位置し、男性では直腸の前方に膀胱や前立腺、女性では膣、子宮、膀胱などがあるため、これらの臓器温存や機能障害の問題、さらに永久人工肛門を作成するかの問題があります。

手術は、他の消化器がん同様、がん周囲の正常な部分を含めた切除が必要です。通常進行がんが肛門から5cm以内にできてしまうと、肛門括約筋の切除が必要なため直腸と肛門を一緒に切除して永久人工肛門を作らざるを得ないこととなります。(図1)

図1 永久人工肛門を伴う直腸がん手術



# 機能障害防止と永久人工肛門回避へ

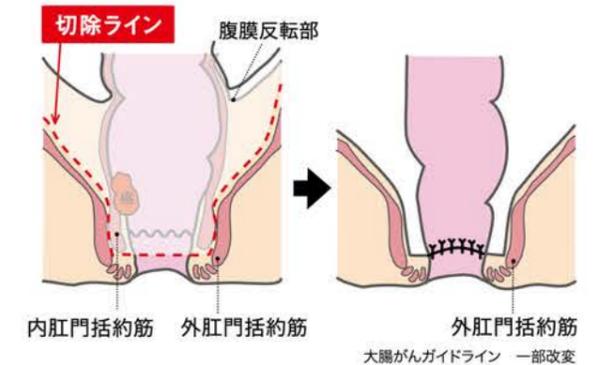
## ■直腸がん治療における当院での取り組み

当院では、直腸がんのほとんどの手術を腹腔鏡下手術で行なっています。昨年、3D機能をもった最新の腹腔鏡装置を導入しました。これによりこれまでの2次元画像から3次元画像での手術が可能となり、これまでよりさらに精緻で安全な手術を行うことができるようになり、術後の機能障害防止と永久人工肛門の回避につなげています。さらに、術前の化学放射線治療を導入しています。放射線照射は、生存率の向上に関する大規模試験はありませんが、局所再発予防や切除不可能なものを切除可能にするなどの効果が認められています。進行した直腸がんに対して、術前に内服抗がん剤と放射線治療を組み合わせることで、機能障害発生の主因である広範なリンパ節郭清を回避し、泌尿生殖系の機能障害などの合併症軽減をはかっています。さらに腫瘍縮小効果が高い症例では、永久人工肛門を回避できる可能性があります。

## ■今後の取り組み

直腸がんでは、病巣から2cm以上離れた肛門側までがん細胞が広がることはほとんどないことがわかっています。従来では、永久的な人工肛門を必要としていた直腸がんに対して、がんの根治と肛門温存の両立を目指して、様々な手術が考案され、その代表的な手術にISR(括約筋間直腸切除術)があります。内外肛門括約筋のうち内肛門括約筋のみ切除する方法で、これまでよりもさらに肛門に近いがんでも永久人工肛門が回避できる可能性があります。適応は限られますが、当院でも積極的にを行う予定にしています。(図2)

図2 ISR(括約筋間直腸切除術)

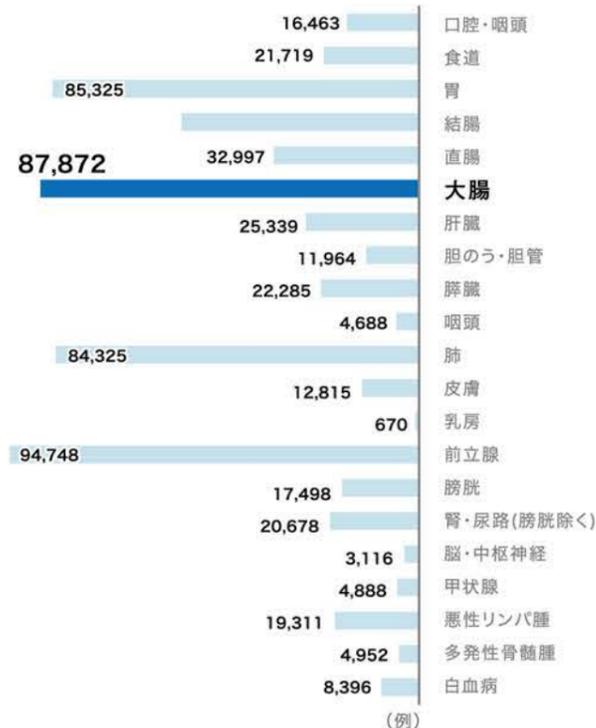


今後当院においても、手術支援ロボットの導入を予定しています。開腹手術と比較すると低侵襲で優れた点が多い腹腔鏡下手術ですが、限界もあります。腹腔鏡下手術では、手術器具は直線的な動きしかできないため操作の自由度が低く、カメラの操作を助手が行うため術者の思うような視野が得られないことや、手ぶれしてしまうなどのデメリットがあります。このようは問題を改善する目的で開発されたのが、手術支援ロボットです。医師はコックピットのような操作ボックスの中に座り、遠隔で操作し3次元で高精細な映像を見ながら、患者さんの体内に入り込むような感覚で手術をすることが可能になります。

今後も直腸がんは増加することが予想されており、これまで以上に合併症を抱えた高齢者も増えると思われます。低侵襲な治療を行うことはもちろんですが、総合病院である強みを生かした全身管理で、より安全で安心できる治療を目指していきたいと思えます。

## 部位別がん罹患数

【男性 2019年】



【女性 2019年】



出典：国立がん研究センター

## 消化器外科・消化器病センターの医師紹介



消化器外科のカンファレンス ※左から2番目が須藤先生です。

院長補佐 / 消化器外科診療部長 / 消化器病センター長

須藤 隆一郎 (すとう りゅういちろう)

### 【資格】

- 日本外科学会 指導医・専門医・認定医
- 日本消化器外科学会 指導医・専門医・認定医
- 消化器がん外科治療認定医
- 日本消化器病学会 指導医・専門医
- 日本消化器内視鏡学会 専門医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

看護部  
通信



患者さんにご家族からいただいた  
言葉に基づくスタッフ教育



がん看護専門看護師 キャリア形成支援担当師長 山本知美

専門看護師の資格取得から10年以上経過し、その間にお会いした方々からのお手紙で印象に残っている言葉があります。

「たとえ命が縮まっても自分らしく生きていきたい」「これからも難病に苦しみ戦っている人たちに、生きる勇気と喜びを与え続けるケアをお願いします」このような言葉をいただくと、一人ひとりの患者さんやご家族と接する時間を大切にしなければと、初心にかえるとともに意欲を持って関わることができます。患者さんやご家族が抱えている苦痛・苦悩の原因は何なのか、緩和できる方法はないのかなど、常に考えながら実践することが看護師には求められています。看護師としての役割を果たすためには、知識や判断力を育成し続けていくことが必要で、教育担当師長として自己の能力開発と共にスタッフ教育を意識した活動を行っています。

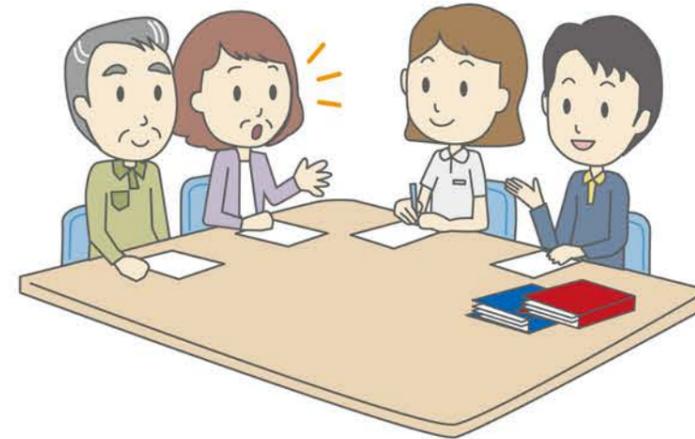
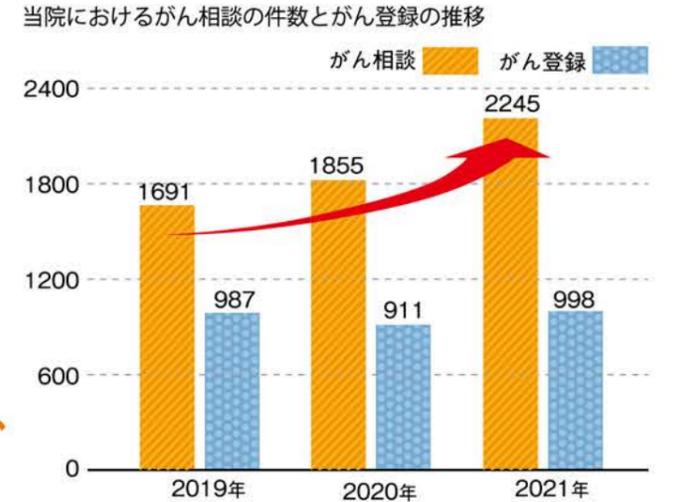
スタッフ教育の場としては、院内で定期的に開催する研修であったり、部署単位で行う研修であったりと、様々あります。どの場においても、「患者さんらしさを保つケアを提供できるように」「生きる勇気を

持てるような寄り添う看護の実現のために」など、患者さんやご家族からいただいた言葉を意識しながら、研修内容を設定しています。苦痛といってもその原因や対処方法は人によって異なります。多角的な視点で患者さんやご家族がおかれている状況をスタッフ自身が分析して行動できるよう、支援していきたいと思っています。各部署のスタッフと連携して最善のケアを提供できれば、多くの人に生きる勇気を与え続けていけると考えています。



「がん相談支援センター」って、  
どんなところ？

突然ですが、「がん相談支援センター」という名称を聞かれたことはありますか。がん診療連携拠点病院には、「がん相談支援センター」の設置が義務付けられています。では、何をするとところなのでしょうか。当院には「がん相談支援センター」が設置されていますが、そこにはがん専門相談員といってがんに関する研修を受けている看護師、医療ソーシャルワーカーが常駐しています。ここでは、「がんと診断されてこれからどうしたらいいかわからない。」「先生の説明がわからない。」といった診断直後の衝撃の強い段階で来られる方や、治療が始まり「治療の副作用で悩んでいる。」「仕事との両立を考えたい。」というように、がん治療と生活との両立に関することなど、様々な相談をお聞きしています。



新型コロナウイルス蔓延が、がん治療に影響を及ぼしていることも確かです。グラフは、当院におけるがん登録とがん相談の件数を示しています。がん登録は、2020年登録数が若干減少していますが、がん相談は年々増加傾向にあります。社会の様々な出来事や個人の抱える問題、あふれる情報に迫られる意思決定。「がん相談支援センター」では全てを解決することはできませんが、患者さんそれぞれに寄り添って、ご自身の力を最大限に発揮してがん治療のぞんでいただける支援を致します。当院にかかられていない方でもお気軽にご相談ください。



院長  
だより

令和4年も残すところ一か月余りとなった。今年の国内外の社会経済状況を俯瞰してみると、危機を修復する管理能力の格差が、創り上げられていく未来の扉の開閉に大きく影響するに違いない。そして、回復に向けた連携と支援の輪の大きさも大切と思う。牛がのんびり草をはむ姿を見ながら晴耕雨読の自給自足の生活をするだけでは、今の日本・地球は生きていけない連鎖反応の環境の中にある。

わが医療センターを取り巻く環境も同様である。病院の建て替えも見据えて、地域の皆さんと集う対話の場で安定した質の高い医療提供体制をどのように構築すべきか、知恵を絞りながらの模索の日々が続く。でも、やりがいがある。



武藤 正彦



## 組織の名称変更について(令和4年10月)

内分泌内科 → **糖尿病・内分泌内科** 診療部長 竹田 孔明 医師

### やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)



放送日時	放送内容	出演
12月3日(土) 18:55~19:00	頭頸部がんの集学的治療	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 竹本 剛 医師
12月7日(水) 16:00頃~		
1月7日(土) 18:55~19:00	尿蛋白から広がる 腎臓病の診断・治療	腎臓内科 池上 直慶 医師
1月11日(水) 16:00頃~		

### 令和4年度 県民公開講座の開催報告

※web閲覧回数は10月31日時点に掲載しています。

開催日時	テーマ	出演	集合型		web 閲覧回数
			会場(集合型)	参加人数	
7月23日(土) 14:00~15:00	膝関節痛を考える ~ロボット手術の現況~	整形外科 椎木 栄一 医師 吉田 紘二 医師	WEB 参加のみ	—	279
8月20日(土) 14:00~15:00	肺がん	外科 林 雅太郎 医師		—	273
9月17日(土) 14:00~15:00	消化管がんと内視鏡	消化器内科 岡本 健志 医師		—	170
10月22日(土) 14:00~15:00	糖尿病を正しく知って 延ばそう健康寿命	糖尿病・内分泌内科 竹田 孔明 医師	当院2階 大会議室	16	129

今年度の県民公開講座は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、4回のうち3回はWEB配信のみとしました。来年度の開催日程と参加方法については、今後のセンターだより、当院ホームページでお知らせします。

#### ■参加方法

##### 【集合型(定員30名)】

事前申込が必要となります。院内に設置しているチラシ(申込書)に記入していただき、ご持参又はFAXをしていただくか、事務部総務課(0835-22-4411)までお電話ください。当院ホームページからも参加申込書のダウンロードが可能です。※新型コロナウイルス感染流行期の場合、集合型は中止しWEB参加型のみとさせていただきます。

##### 【WEB参加型】

事前申込は不要です。当院ホームページに設置する専用タブをクリックしていただき、ご参加ください。

#### 編集後記

これから寒い季節となり、運動する機会が減ってきます。この度人生で初めて健康器具を購入しました。新型コロナウイルス、インフルエンザ、その他にも流行する感染症は多々ありますが、体を鍛えてウイルスにも負けない体づくりをしていきたいものです。消化器系が弱いこともあり、簡単に鍛えることのできる健康器具があったらと思う浅はかな考えをついついしてしまいます。また、今回で創刊50号となり、携われることを光栄に思います。これからも皆さんに有益な情報を発信していきたいと思っております。(総務課Y. N)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地  
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210  
URL <https://www.ymgph.jp/>